平成29年1月30日

研修報告書（専攻医研修）

氏名：上野 晃弘

所属：信州大学医学部附属病院遺伝子医療研究センター

研修期間：平成29年1月23日　～　平成29年1月27日

研修場所：千葉大学医学部附属病院検査部・遺伝子診療部

研修内容：

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
| 8:30- |  |  |  |  | Shared decision making |
| 9:00- | orientation |  |  | 発表準備 |
| 講義：行動科学と心理学 | 神経内科外来見学 |
| 10:00- | 発表準備 | 分子病態解析学教室挨拶 | 遺伝性筋疾患患者とその家族 |
| 11:00- | 講：家族性腫瘍 | GC：  遺伝性筋疾患 | 講：遺伝学的検査と検査精度 | GC：  脊髄小脳変性症 | GC：  脊髄小脳変性症 |
| 12:00- | 食堂 | 院内コンビニ | 食堂 | 院内コンビニ | レストラン |
| 13:00- | 事前学習 | 講：神経内科における遺伝学的検査 | 学部4年生講義  小生も聴講発表  （遺伝性末梢神経障害の遺伝学的解析と発症前診断について） | 講：検査費用負担とLQTの遺伝学的検査 | GC：  発症前診断  遺伝性腫瘍 |
| 14:00- | GC：  発症前診断  家族性腫瘍 | GC：  発症前診断  遺伝性筋疾患 | 遺伝学的検査実習  SCA検査解析 | 復習 |
| GC：  遺伝性神経疾患  小生も説明 |
| 15:00- |
| 16:00- | 講：検査精度と遺伝学的検査 | 復習 | 発表準備 |
| 17:00- |  | 学内見学 | 発表準備 |  |
| 18:00- |  | GC：  発症前診断  精神神経疾患 | 発表準備 | 遺伝子診療部  カンファレンス  小生も参加発表 |  |
| 夜 | 創作料理 | インド料理 | 海鮮料理 | 創作料理 |  |

※註　講：man-to-manでの双方向型講義、GC：陪席した遺伝カウンセリング

研修内容と学習(気付き)内容：

・発症前診断することに対してリスク管理と、臨床遺伝カウンセラーとは異なる役割を明らかにした臨床心理士の仕事内容について学んだ。

・治療のある疾患の発症前診断について、ただしその子供や同胞、時に親をも疾患と疾患以外の問題のリスクについて遺伝カウンセリング陪席を通して学んだ。

・遺伝性筋疾患の出生前診断希望のあるクライアントの遺伝カウンセリングの陪席を通して、疾患および周産期管理等関係の多科の関わる遺伝カウンセリングの重要性を感じた。

・片方が遺伝性精神神経疾患の可能性のある婚前の1組の恋人同士の遺伝カウンセリングを通して、成人であっても判断能力の十分でない発端者がおり、精神科・小児科・神経内科・産婦人科など遺伝専門医も多方面から対応する必要性などを感じた。

・遺伝学的検査の費用面や制度面や、検査精度に関する体制の不十分さと構築の必要性を学んだ。

・医学部4年生の講義の中で、自験例の遺伝性末梢神経障害の診断までの流れと診療における問題点について一部を参加型形式で発表した。

・検査学的手法における学術技術特許のもつ問題、また医学のみでない多学・産学連携の検査体制の構築と、検査解析結果の解釈の難しさを学んだ。

・トリプレットリピート病の解析手法について、multiplex PCR法を用いたリピート数測定について実際にsampleを用いて測定した。

・他のNGSD専攻医やインテンシブコースの先生がどのように研修してきたか、カンファレンスの発表と質問の場で本音も聞くことができた。

・Evidence-based medicineの達成のためには、Shared decision makingが大前提であることを痛感した。

・極力先入観を与えることなく多様性を提示する1つのツールとしてイラストを用いた多様なパターンを用意するという方法を学んだ。

・遺伝専門医の指導の下、初めて遺伝カウンセリングの説明を行った。改めて、事前の説明資料の準備がいかに大事か認識し、またその事前資料を実際に説明することで、クライアントの感じる疑問点などを、同時に把握することができると感じた。

研修成果：

・研修は1週間と短い期間であったが、①検査手法の差異や②遺伝カウンセリングの多職種の関わり方、③遺伝カウンセリングの発症前診断時や出生前診断時の重要な心理社会的なサポートの重要性や、④コスト面で非常にあいまいな体制となっている現状について、ソフトとハード、心理と臨床、チーム医療とそのコンサルテーションについて、異なる分野を幅広い観点で学ぶことができたといえる。

その他（感想・要望・反省点、等）：自身に発表の機会があることは、学びの機会を逆説的に増やすことになるものと気付きました。今後も研修中の必須項目として取り上げていただきたいです。事前準備から研修中のマネジメントを含め千葉大学でお世話になったすべての皆さんと、本研修を支援してくださったすべての方々に深謝申し上げます。